

県内稀産のヒノキアスナロとの共存

石 沢 進

雪国に適応分化したユキツバキと共存あるいは住み分けしている植物について関心を持って、比較を試みている。ここではユキツバキと県内でも稀産のヒノキアスナロとの共存の稀な例を紹介し、その保護について強調したい。

ヒノキアスナロ *Thujaopsis dolabrata* (Linn.fil.) Sieb. et Zucc. var. *hondae* Makino (ヒノキ科) は、北海道、本州の北部、石川県に分布している。新潟県内では、離島の佐渡ヶ島の大佐渡山地に分布し、そこではやや広く生育しているが、本土では、多雪地域にはほとんど見られず、東蒲原郡上川村茗荷袴腰山 海拔250mに隔離分布し、極く限られたところに生えているだけであり、分布上貴重な存在である。母種のアスナロに比べて球果が円くて、鱗片の突起が著しくないことから区別されている。生育地は急傾斜地の尾根で、やや乾性の立地である。

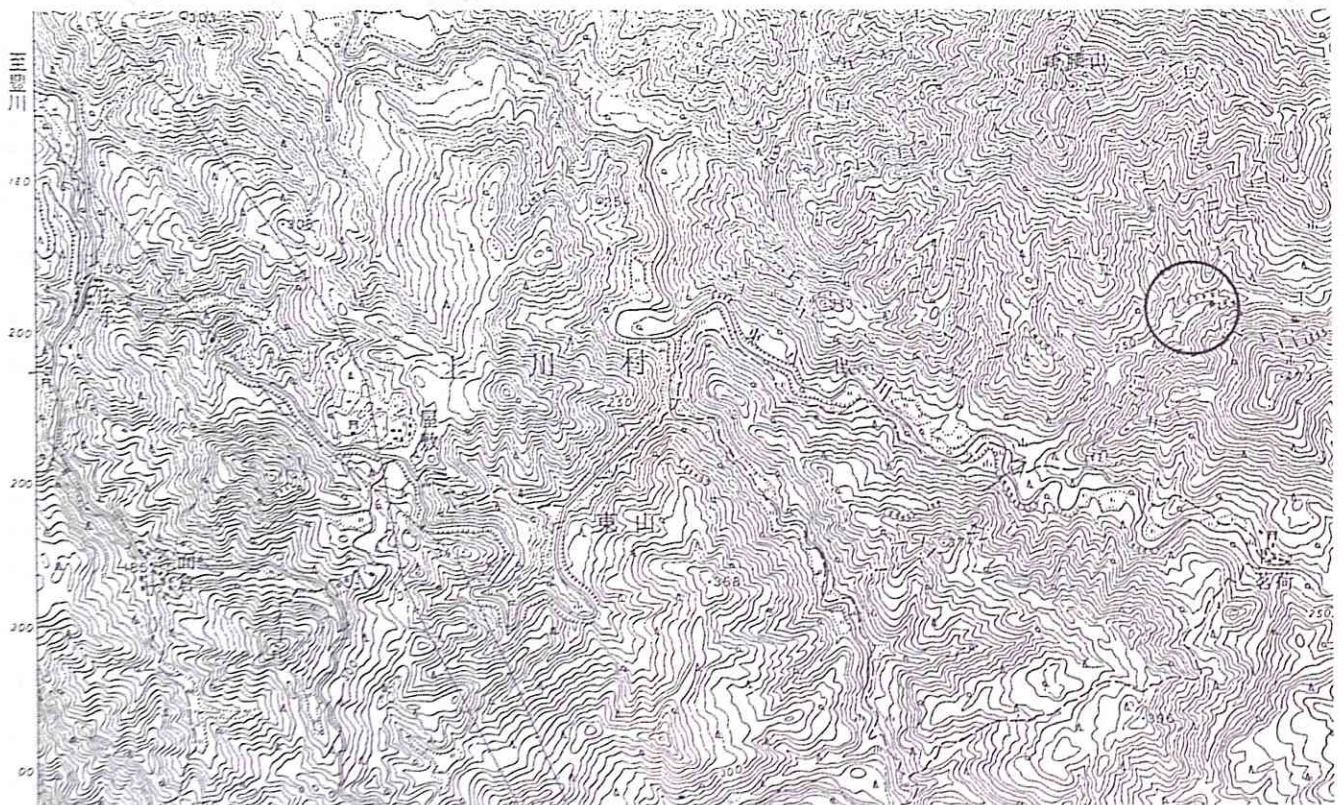
ヒノキアスナロは、多雪地域の植物とは共存することはなく、大局的にはそれらと分布域を異にする植物群の一つであると推定している。しかし、上川村茗荷袴腰山では雪国の代表的な植物の一つであるユキツバキと共存しているので生態分布の上から甚だ興味深い。このヒノキアスナロの生育地では、低木にユキツバキが生育し、両者が葉を接しているところであり、ここ以外にはみられない特例であ

ろう。従ってその保護には万全を期すことが肝要である。

ヒノキアスナロは最大幹周り73cmであり、それほど大きいものではないが、数本まとまって生えている。高木にはヒノキアスナロの他、アカシデ、ミズナラ、キタゴヨウが混生し、その低木層にユキツバキが生育し、低木のヒノキアスナロと並んでいる。また、日本海側に分布するハイイヌツゲ、アカミノイヌツゲ、エゾズリハ、チマキザサなどの常緑低木やヤマモミジ、オオバクロモジ、ユキグニミツバツツジ、マルバマンサクなど落葉低木が共に生育している。草本層にはツルアリドオジ、ユキグニカンアオイ、イワナンなど主に日本海側に分布する植物がみられる。

さらに生育地には南方系のソヨゴが共存している。この地域には稀にソヨゴが分布しているようであり、この生育地から500m程離れたところにも分布することを確認している(石沢,1990)。県内でも最も内陸の分布であっておそらくその限界にあたり、ヒノキアスナロと共存していることも貴重である。

幸いこの生育地の保護のために東蒲原郡上川村では、文化財に指定している。貴重な天然記念物として末長く、また、周辺の環境も大きく改変せずに温存させておいてほしい、と願っている。



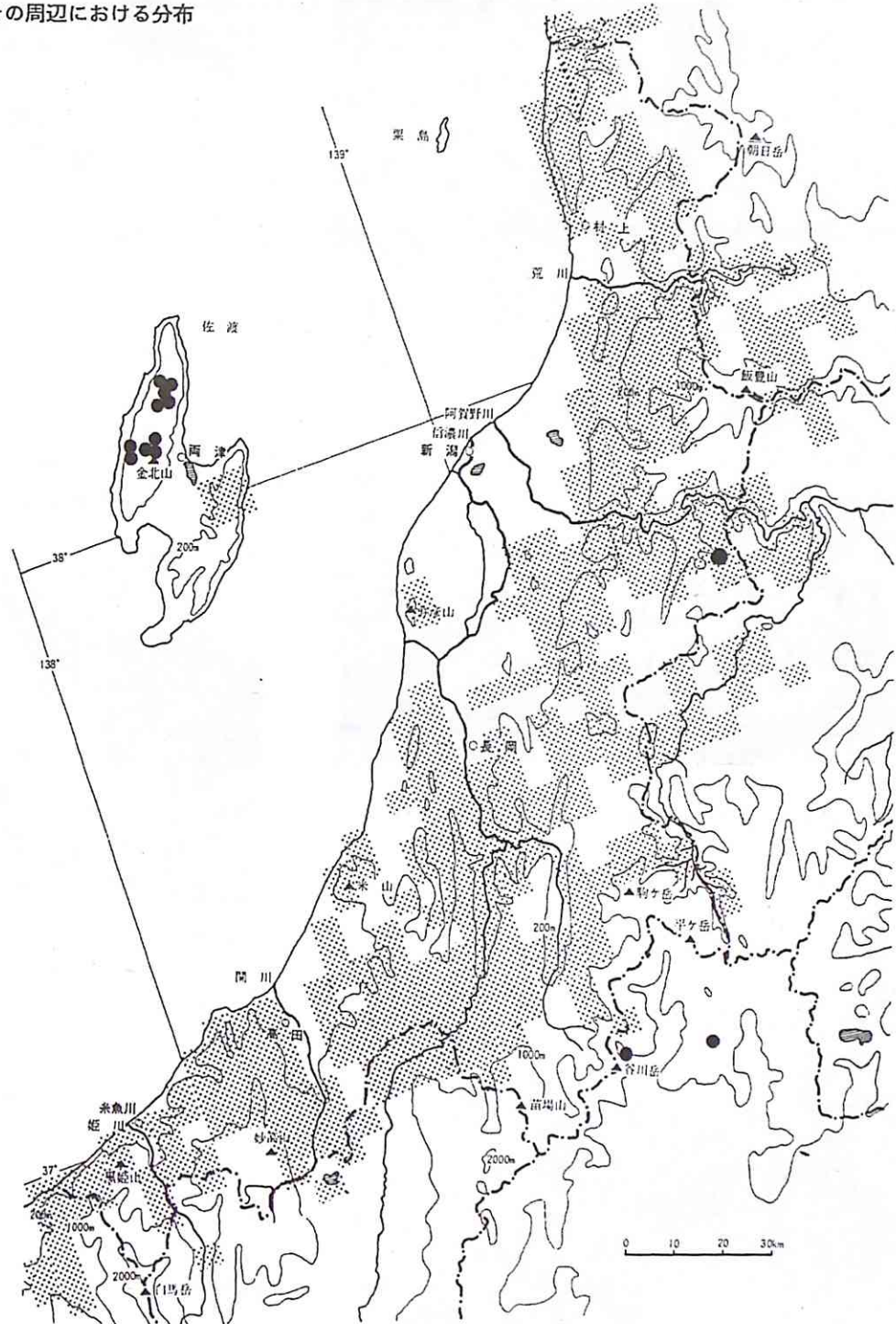
ユキツバキとヒノキアスナロの共存地域の位置 (円内)

ヒノキアスナロの新潟県およびその周辺における分布

垂直分布

ヒノキアスナロ (黒点)

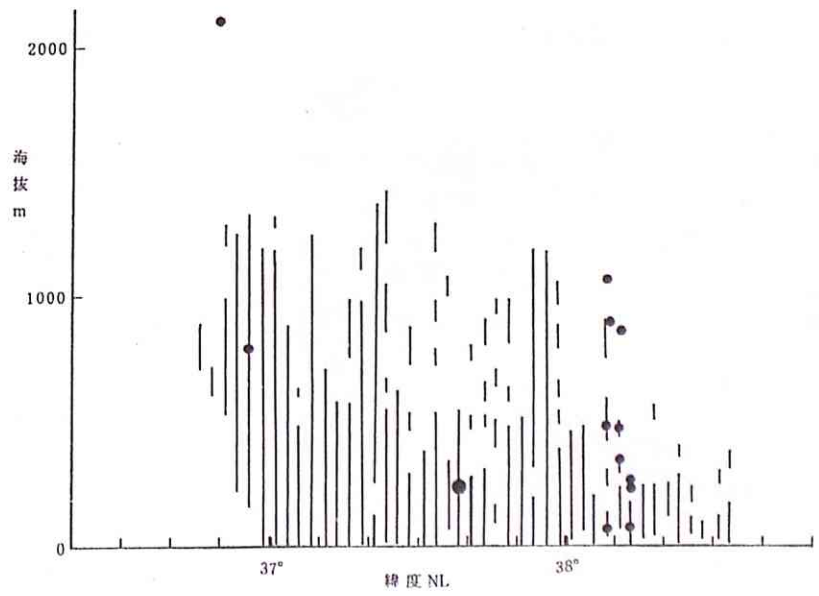
ユキツバキ (細点)



垂直分布

ヒノキアスナロ (黒丸)

ユキツバキ (実線)





ヒノキアスナロの高木（加藤忠一先生と樹幹）



ソヨゴとの共存

植生

高木層 ヒノキアスナロ（幹周73cm,1・1）、ブナ（幹周108cm,2・3）、アカシデ（幹周104cm,1・1）、ミズナラ（幹周79cm,1・1）、キタゴヨウ（幹周85・120cm,2・2）、スギ

低木層 ユキツバキ、ヒノキアスナロ、ヤマモミジ、ハウチワカエデ、ヒメモチ、オオバクロモジ、ヤマウルシ、マルバアオダモ、ミヤマガマズミ、アクシバ、エゾユズリハ、オオバスノキ、ハイイヌツゲ、アオハダ、ユキグニミツバツツジ、ホツツジ、ナツハゼ、マルバマンサク、ムシカリ、ミズナラ、チマキザサ、ソヨゴ



ヒノキアスナロの球果（背面の角状突起が目だだない）



ユキツバキとの共存（写真撮影 1992. 11. 11）

草本層 イワカガミ、シシガシラ、イワウチワ、ヤブコウジ、ツルアリドオシ、ユキグニカンアオイ、テリハタチツボスミレ、ショウジョウバカマ、イワナシ、オウレン、シュンラン

文献

関 省吾 新潟県植物分布図集 第9集：69-70.
石沢 進 新潟県植物分布図集 第11集：20.

現地調査の際には、東蒲自然同好会会長の加藤忠一先生に、わざわざ生育地までご案内して頂きましたことに厚くお礼申し上げます。